

学内広報

2003. 9. 24
東京大学広報委員会

世界一のっぽの花が小石川植物園で咲く



世界一のっぽの花は、高さ約3m花にあたる部分だけでも約1mもある。

特別公開を開始した9月14日から9月21日までの期間中の見学者は、9,649名にもものぼった。

(3ページに関連記事)

目次

一般ニュース	2
評議会(9月9日(火))承認事項、「平成15年度第1回東京大学総長賞」の受賞者決定される	
部局ニュース	3
世界一のっぽの花が小石川植物園で咲く、情報理工学系研究科岩田覚助教授第18回数理解計画国際シンポジウムにおいてFulkerson Prizeを受賞、第3回ジャーナリストのための短期研修セミナー「政党が	

ないと民主主義は成り立たないのかー激増する「無党派」、危機的状況の「政党政治」ー」終わる、第12回原子力研究総合センター技術発表会開催される	
掲示板	5
第28回東京大学伊豆・戸田国際マラソンレースの開催、平成15年度東京大学大学院学生学術研究奨励金給付申請者の募集について、特別展「シーボルトの21世紀」の開催のご案内、スポーツ・トレーニング(実習)開講のお知らせ	
淡青評論「常識」	8

≡ 一般ニュース ≡

評議会（9月9日（火））承認事項

東京大学医学部附属病院規則の一部改正

診療科長の選任方法に教授が欠員の場合を追加し、併せて中央診療施設等、薬剤部及び看護部の部長等を含めた職務等の規定の見直しに伴い所要の改正が行われた。

附 則

この規則は、平成15年9月9日から施行し、改正後の東京大学医学部附属病院規則の規定は、平成15年7月16日から適用する。

東京大学における教員の任期に関する規則の一部改正

大学院医学系研究科及び大学院農学生命科学研究科では、既に導入している教員の任期制の教育研究組織等の見直しに伴い所要の改正が行われた。

附 則

この規則は、平成15年10月1日から施行し、同日以降に任用される者について適用する。

東京大学教養学部規則の一部改正

後期課程基礎科学科における分科名をより適切な教育内容を明示するものに改めるとともに、授業科目の名称変更等カリキュラムの見直しをするために、所要の改正が行われた。

附 則

- 1 この規則は、平成15年10月1日から施行する。
- 2 平成16年3月31日以前に本学部後期課程に進学又は入学した者については、改正後の第10条及び別表第2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

東京大学医学部附属病院及び東京大学医科学研究所附属病院受託実習生受入規則等の一部改正

附属病院等においては、委託による研修生・実習生を受け入れており、薬剤部では一般的な薬剤実務の研修・実習にとどまらず、より幅広い薬剤師として必要な知識と技術の習得を目指すことを目的としている。そのための独自のカリキュラムに基づき専任の指導教官及び技官が調整剤部門、製剤部門、医薬品管理部門、情報・研究部門において指導を行っており、他の職種の教習とは内容が異なっている。このためのカリキュラムを実施する研修期間として、受託実習生については2週間、研修生については11ヶ月を必要としている。また、受入れに係る受託実習料・研修料については、実際に要する経費や準備などの時間を考えると実態と大きくかけ離れており、積算を見直す必要があること等に伴い所要の改正が行われた。

附 則

この規則は、平成15年9月9日から施行し、平成15年7月15日から適用する。

「東京大学大学院公共政策学教育部・公共政策学連携研究部設立準備会」の設置

教育部及び連携研究部の創設に関すること等について審議するため、次のとおり標記準備会を評議会の下に設置した。

東京大学大学院公共政策学教育部・公共政策学連携研究部設立準備会要綱

（設置）

第1条 東京大学に東京大学大学院公共政策学教育部・公共政策学連携研究部設立準備会（以下「準備会」という。）を置く。

（任務）

第2条 準備会は、次に掲げる事項について検討する。

- (1) 教育部及び連携研究部創設に関する基本事項
 - (2) 大学設置・学校法人審議会に関する事項
 - (3) その他教育部及び連携研究部創設に関する事項
- （組織）

第3条 準備会は、委員長及び委員若干名をもって組織する。

（委員長）

第4条 委員長は、副学長のうちから総長が委嘱する。

2 委員長は、準備会を招集し、会務を総括する。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指名する委員が、その職務を代理する。

（委員）

第5条 委員は、次の各号に掲げる者に総長が委嘱する。

- (1) 副学長
 - (2) 関連する研究科（学環を含む。）及び研究所の長のうちから総長が指名した者
 - (3) 総長が必要と認めた教授又は助教授若干名
 - (4) 企画調整官
- （委員以外の者の出席）

第6条 準備会には、委員のほか委員長が必要と認めた者を出席させることができる。

（部会）

第7条 準備会における検討を補助するため、準備会のもとに部会をおくことができる。

（庶務）

第8条 準備会の庶務は、事務局学務課において処理する。

（補則）

第9条 この要綱に定めるもののほか、準備会の運営に関し必要な事項は、準備会の定めるところによる。

附 則

この要綱は、平成15年9月9日から実施する。

「平成15年度第1回東京大学総長賞」の受賞者決定される

学生表彰選考委員会（委員長林良博農学生命科学研究科教授）では、今年度第1回表彰の実施に向けて、本学各方面から推薦された合計15件の候補者を慎重に選考審査し、以下の個人1名及び4団体を選出した。

授与式は下記の日時に実施されるが、授与式では、受賞者への表彰状及び記念品の授与、総長の挨拶、各受賞者（個人・団体）からのプレゼンテーションが行われる。また、授与式のあと引き続き簡単な懇談会を予定している。

なお、昨年度第1回表彰を受賞した応援部による特別演舞が、授与式に先立ち行われる予定である。

授与式は、学生諸君を中心とした祝福の場としたいので、各学生団体（サークル）をはじめ多くの学生諸君にぜひ参加をお願いしたい。

記

受賞者

個人の一部

農学生命科学研究科修士2年 新井 裕己
〔山岳スキー未滑走斜面滑降に初成功〕

団体の部

東京大学Cube Satプロジェクトチーム
〔超小型衛星Cube Sat 打ち上げに成功〕
東京大学囲碁部
〔第46回全日本学生選手権大会優勝等優秀な成績〕

東京大学運動会少林寺拳法部
〔2003年関東学生大会優勝等優秀な成績〕

環境三四郎

〔キャンパスの美化、啓蒙活動等環境問題への自主的活動〕

授与式

日時 平成15年9月30日（火）
○授与式 17:00～18:00
○懇談会 18:00～19:00

場所 農学生命科学研究科「弥生講堂」

（学生部）



≡ 部局ニュース ≡

世界一のっぼの花が小石川植物園で咲く

大学院理学系研究科附属植物園（通称：小石川植物園）で *Amorphophallus gigas* Teijsm. & Binnend.（サトイモ科コンニャク属）が開花した。この植物はインドネシアのスマトラ島に固有の植物で、世界で最も背の高い花（実際には花序）を持つとされるショクダイオオコンニャク（*A. titanum* (Becc.) Becc. ex Arcang.）（小石川植物園では平成3年に開花）の近縁種である。花序の部分だけなら確かにショクダイオオコンニャクの方が大きいのだが、花梗（花序の柄）を含めれば、圧倒的に *A. gigas*の方が大きい。まさに“gigas”の名前にふさわしい“巨大な”植物である。

現在小石川植物園で開花している *A. gigas*は、1993年にJ. Symon氏によってスマトラ島で採集された種子から栽培されたものである。同時に採集された種子はアメリカの多くの育種家に送られ、マイアミのフェアチャイルド植物園では、1999年に初めて開花させることができた。小石川のものはおそらくそれに次ぐ記録であり、温帯域での栽培・開花という点では、ことによると世界初かもしれない。もちろん、国内では初めての開花である。

*A. gigas*は巨大な熱帯産の植物なので、栽培には大変な苦労が必要であったらう。この植物が植えてある大きな木製の鉢（96cm×96cm×70cm）も自家製である。鉢の中には最大で70kgにも達する球茎（コンニャクで言うところの「芋」）が入っている。球茎からは高さ4m以上にもなる1枚の葉がでて、およそ6ヶ月から1年の間、球茎に栄養を送る。栄養をたくわえた球茎は数ヶ月の間休眠し、また、葉を出す。このようなサイクルを繰り返し、開花に十分な栄養が蓄えられたとき、初めて花序を作る。小石川植物園の場合、種を撒いてから開花にいたるまで10年以上を要している。この間栽培にあたられた育成部の方々に敬意を表したい。

今回開花した *A. gigas*は、9月14日には雌花が成熟しはじめ、そのころは仏炎苞がもう少し平開した。この頃から何かが腐ったような臭いがし始めた。2日ほどして雄花が成熟し、その後しほみ始めることになる。開花中の花は植物体全体の高さが約3m、仏炎苞から上の花序の部分だけで約1mあるので、花序を上から観察できないのは少々残念である。ただ、9月14日から行われた特別公開では、この種独特の臭いを楽しんで頂けたらう。

*A. gigas*の日本における開花を、インドネシア植物園園長のデディ・ダルナエディ博士に報告したところたいへん喜んでくださり、「小石川植物園での栽培と開花の成功に賛辞を送りたい。*Amorphophallus gigas*は希少植物であり、植物園での開花は極めて希である。ショクダイオオコンニャクとの違いを学ぶ良い機会にもなるだろう。小石川植物園における栽培と開花の成功は、この植物の保全にとって重要な快挙である。」という祝辞を頂戴した。このような貴重な植物を一般の方々にも見て頂くために、通常は非公開の研究温室において、9月14日（日）から9月21日（日）まで特別公開が行われた。来園者の皆様には世界一のっぼのコンニャク属植物の花と臭いを身近に体験し、スマトラの山野に思いをはせていただけたことだろう。

（大学院理学系研究科附属植物園）

情報理工学系研究科岩田覚助教授第18回数理解 計画国際シンポジウムにおいてFulkerson Prize を受賞

平成15年8月、コペンハーゲンで開かれた第18回数理解
計画国際シンポジウムにおいて、岩田覚助教授が、か
ねてから評価が高かった劣モジュラ関数最小化に関する
論文（藤重悟氏、L.Fleischer氏と共著）に対して
Fulkerson Prizeを受賞しました。

この賞は離散最適化に関する理論的貢献に対して国際
数理解計画学会とアメリカ数学会によって授与される国
際賞で、日本人では初の快挙です。

21世紀COE「情報科学技術戦略コア」超ロバスト計
算原理プロジェクトでは、これを記念し、次のように受
賞記念講演会を開催します。

どうぞふるってご参加下さい。

【岩田覚助教授 Fulkerson Prize 受賞記念講演会】

第一部 記念講演会

日時：平成15年10月15日（水）16：30～17：40

場所：本郷キャンパス工学部6号館3階セミナー室A

講演題目：「劣モジュラ関数と離散最適化」

講演者：岩田覚（大学院情報理工学系研究科
数理解情報学専攻 助教授）

入場料：無料

第二部 祝賀レセプション

日時：平成15年10月15日（水）18：00～20：00

場所：松本楼 東大本郷店（工学部2号館1階）

会費：一般¥5,000 学生¥2,000

会場の地図は次のウェブページにあります。

http://www.u-tokyo.ac.jp/jpn/campus/hongo/map_hongo_01.html

（大学院情報理工学系研究科）

第3回ジャーナリストのための短期研修セ ミナー

「政党がないと民主主義は成り立たないの
か—激増する「無党派」、危機的状況の「政
党政治」—」終わる

8月8日（金）、9日（土）、10日（日）の3日間にわ
たって社会情報研究所の国際ジャーナリズム研究プロ
グラム・newslabの主催で“現役ジャーナリストのための
研修セミナー”が行われた。

このセミナーは大学にジャーナリスト研修の場を作ろ
うという意図のもとに昨年からはじまったもので、3回
目を迎えた今回は政治報道をテーマとし、全国の新聞社
の政治部・社会部の中堅記者ら11名が参加した。

はじめの2日間は元細川首相秘書官の成田憲彦・駿河

台大学副学長や逢坂誠二北海道ニセコ町長など講師6名
を招いて「政党政治の今日的状況—脱『政党』と脱『無
党派』の相克」や「無党派の限界、改めて問う政党の真
価」などといったテーマのもと全体を通して活発な議論
が行われた。参加した記者等からは、これまで使い慣れ
ていた「無党派」という言葉についてあらためて考えさ
せられた、という意見も聞かれた。また、「無党派層は
なぜ増えたのか」や「既成政党に頼らない選挙戦術」と
いう観点で2つの分科会に分かれての議論も行われ、単
に講師から話を聞くというのではなく、さまざまな切り
口からそれぞれの参加者が捉え直し、現場での取材経験
を生かしながらの熱いセミナーとなった。

3日目には、政党政治家として菅直人・民主党代表、
無党派として堂本暁子・千葉県知事、村尾信尚・元大蔵
省（財務省）主計官・NPO「WHY NOT」設立者、そ
して有識者兼コーディネーターとして佐々木毅・東京大
学総長をパネリストに迎え、セミナー参加者以外にも開
かれた一般公開シンポジウムが「無党派は日本の政治を
変えるか—ジャーナリズムは問いかける—」と題して行
われた。

当日は定員300人の弥生講堂・一条ホールに立ち見が
出るほどの大盛況で、学内外から多くの人が訪れ熱気あ
ふれるシンポジウムとなった。

第1部では、パネリストからの問題提起として政党政
治の現状や問題認識、有権者の投票行動の変化などが指
摘された。つづく第2部では研修に参加したジャーナリ
ストの中から、毎日新聞政治部デスクの人羅格さんと新
潟日報東京支社報道部記者の高橋直子さんが討論者とし
て登壇し、無党派に関する議論のみならず、政治とジャー
ナリズムの関係についても話が及んだ。菅氏からは
「4権などといっても、今の日本で1番大きな権力を持
っているのはジャーナリズムではないのか。もっとしっ
かりとしたスタンスでやってほしい」、堂本氏からは
「目に見える素材ばかり追いかけるのではなく、事実を
掘り下げていくような調査報道もしっかりやってほし
い」というような注文が出される場面もあった。



公開シンポジウムの様子

（社会情報研究所）

第12回原子力研究総合センター技術発表会開催される

原子力研究総合センター主催の技術発表会が9月1日(月)13時15分より開催された。技術発表会は、技術職員相互の交流と技術水準の向上をはかるため毎年開催されており今年で第12回目を迎えた。開会の挨拶は、センター長(技術部長兼任)の中澤正治教授が病気のため、伊藤泰男教授が行った。その後、引き続き以下の題名で発表された。

1. MALTの現状
(タンデム加速器研究部門 中野忠一郎)
 2. パルサーを用いたエネルギー較正方法の検討
(共用設備管理部門 森田 明)
 3. 高温質量分析計の技術開発と今後
(共用設備管理部門 安本 勝)
 4. 話題提供「コンドライト隕石の化学組成」
(全国共同研究部門研究機関研究員 尾寄大真)
 5. 話題提供「宇宙線生成核種¹⁰Beによる
南大東島の土壌の年代測定」
(タンデム加速器研究部門研究機関研究員 前島勇治)
 6. 大学開放研におけるGe-SSDのセッティングの方法
(全国共同研究部門 石本光憲)
 7. MALT PIXEシステムのバックング材に関する
基礎データの蓄積
(タンデム加速器研究部門 中野忠一郎)
 8. 酸共存放射線劣化溶液系へのU(VI)の担持
(共用設備管理部門 池田秀松)
- 発表会終了後には懇親会があり親睦を深めた。



技術発表会の様子

(原子力研究総合センター)

≡ 掲示板 ≡

第28回東京大学伊豆・戸田国際マラソンレースの開催

今年で28回を迎える伊豆・戸田マラソンレースをご存知でしょうか?

東京大学戸田寮(スポーティア戸田)をスタート及びゴールとする42.195kmのフルマラソンレースです。

富士山を望む秋の西伊豆の海岸線や緑豊かな自然いっぱいのコースを走ってみませんか。

前大会から学外の一般ランナーも参加し、ロシア国からの招待選手を含めた国際交流レースとなりました。

皆様のご参加をお待ちしております。

1. 日 時

11月8日(土)	13時30分	沼津港に集合
	18時30分	開会式
		戸田寮泊
11月9日(日)	7時00分	スタート
	13時00分	レース終了
	13時45分	閉会式
	16時00分	沼津港にて解散

2. 参加費 6,800円

(宿泊費及び沼津～戸田間の往復の乗船料を含みます。)

3. 募集人数 100名

(3～5人で1組のチーム参加もできます。)

4. 賞品等

完走者(6時間以内でゴールした者)には完走賞、優秀な成績を修めた選手及びチームには表彰状並びに賞品を贈呈します。

5. 健康診断

指定の時刻を厳守のうえ、必ず受診してください。
場所はいずれも保健センター本郷支所です。なお、定期健康診断を受けていない学生は受診できませんので、他の診療機関で下記項目について健康診断を受けてください。

○心電図検査(10月3日までに受付をした方対象)

10月9日(木)13時00分

10日(金)10時00分又は13時00分

○血圧測定、検尿、医師問診

10月21日(火)15時00分(女性)

15時15分(男性)

6. 受付 9月17日(水)より

○本郷：御殿下記念館モール階運動会受付窓口

9時30分～12時00分

13時00分～16時00分

○駒場：学生課2番窓口

9時00分～12時30分

13時30分～16時30分

<問い合わせ先>

学生部学生課体育第一掛(内線：22509～22511)

(学生部)

平成15年度東京大学大学院学生学術研究奨励金給付申請者の募集について

下記要項のとおり募集しますので、所属部局を通じ、研究協力部国際交流課まで提出願います。

なお、申請手続き等詳細につきましては、各部局担当掛へお問い合わせください。

各事業の申請書類は下記のURLにてダウンロードできます。

<http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/kenkyou/kokusai/gaku-kin.html>

平成15年度東京大学大学院学生学術研究奨励金給付申請者募集要項

1. 趣 旨

東京大学大学院学生の国外における学会報告及び各種研究上の調査に対し、東京大学学術研究奨励資金から学資を給付し、もって大学院学生の国際学術交流及び研究・教育の充実を図るものとする。

2. 応募資格

東京大学大学院に在籍する学生

3. 給付する学資

①平成15年6月から平成15年11月、及び、②平成15年12月から平成16年5月までに行われる国外における学会報告及び各種研究上の調査を行うために必要な経費のうち、渡航に要する費用の一部（エコノミークラスのディスカウント航空運賃を基準）を給付する。（留学のための旅費である場合を除く。）

4. 給付予定者数

各研究科（学府）、若干名とする。

5. 申請手続

学資の給付を希望する者は、下記の書類を所属研究科（学府）委員会委員長を経由して総長に提出する。

(1) 提出書類

ア 申請書（様式1）2部（原本1部及び写1部）

イ 説明書（様式2）2部（原本1部及び写1部）

なお、当該学会・調査の概要を記載した要項等がある場合は、添付すること。

(2) 提出期限

給付区分	渡航期間 (出発月)	提出期限
①	平成15年6月	平成15年4月1日（火）
	平成15年11月	平成15年4月17日（木）
②	平成15年12月	平成15年9月16日（火）
	平成16年5月	平成15年10月2日（木）

なお、①の渡航期間において給付が決定した者は、②の渡航期間について申請することができない。

(3) 提出先

所属研究科（学府）事務部

6. 選考及び結果の通知

給付対象者の選考は、所属研究科（学府）の意見を尊重して、東京大学学術研究奨励資金実施委員会において書類審査のうえ、総長が決定する。選考の結果は、所属研究科（学府）委員会委員長を経由して、①については5月下旬に、②については11月下旬に、申請者あて通知する。

7. 計画の変更・中止

申請した学会報告・調査を変更又は取り止める場合は、選考中あるいは給付決定後を問わず、速やかに所属研究科（学府）委員会委員長を経由して、総長に報告し、その指示を受けること。

8. 報告書の提出

学資の給付を受けた者は、帰国後、速やかに所属研究科（学府）委員会委員長を経由して、総長に報告書を提出すること。

9. 問い合わせ先

所属研究科（学府）事務部又は事務局研究協力部国際交流課

（研究協力部）



特別展「シーボルトの21世紀」の開催のご案内

総合研究博物館では、特別展「シーボルトの21世紀」を開催します。

シーボルトは、江戸時代の日本に医学などヨーロッパ文明を移入しました。その一方で、日本の文化を美術・園芸などを通じてヨーロッパに紹介しました。さらに植物を中心とした日本の自然史研究の基礎となるほう大な標本を収集し、自ら研究もしました。このシーボルトの功績を彼が日本で収集した標本やその他の資料を通じて紹介し、その21世紀への意義を探ろうと試みるものです。

本特別展は、オランダのライデン大学と共同開催する、本館初の国際共同展示です。本学では平成12年の日蘭修好400年記念に際し、ライデン大学が収蔵する400点あまりの植物標本の寄贈を受けました。本展示ではライデン大学から借り受けた貴重な収蔵標本とともにこれらの寄贈標本も展示します。

開催場所 総合研究博物館（本郷構内）
 開催日時 10月4日（土）～12月7日（日）
 （月曜日休館。ただし祝日の場合は開館で翌日閉館）
 開館時間 10時～17時（入館は16時30分迄）
 （10月4日、11日、18日の各土曜日は17時30分迄開館します）
 入館料 無料
 問い合わせ先 03-5777-8600（ハローダイヤル）
 U R L <http://www.um.u-tokyo.ac.jp>

なお、本特別展開催期間中、公開講座「シーボルトの21世紀」（10月27日から10月31日）ならびにシンポジウム「自然史研究の歩み：シーボルトから21世紀にむけて」（10月15日及び11月28日）が開催されます。



シーボルトが採集した標本（ライデン大学蔵）
 （左：カノコユリ、右：シデコブシ）

（総合研究博物館）

スポーツ・トレーニング（実習）開講のお知らせ

教養学部では、専門課程の学生を対象としたスポーツ・トレーニング（実習）を下記の通り開講します。学部、学科を問わず専門課程および大学院の学生であればどなたでも他学部聴講として履修できます。ただし、卒業に必要な単位の一部として認定している学部は現在のところ、法学部（2単位まで）、経済学部（2単位まで）、教養学部（超域文化科学科のみ1単位）、教育学部（2単位まで）、文学部（1単位）です。その他の学部・研究科では随意科目となります。

科目名：スポーツ・トレーニング

開講学部：教養学部後期課程

単 位：1週1回90分1学期の授業で1単位を与える。

開講曜限および場所：

木曜3限（13：15～14：45）および4限（15：15～16：45）に本郷御殿下記念館および御殿下グラウンドで行う。

金曜5限（16：20～17：50）に駒場テニスコート（テニスのみ）で行う。

科目番号：

908（木曜3限）、909（木曜4限）、910（金曜5限）

本郷キャンパスでの開講種目と定員：

3限（13：15～14：45）

ソフトボール 40名

バレーボール 40名

卓球 20名

4限（15：15～16：45）

トレーニング* 40名

バスケットボール 40名

バドミントン 20名

* マシンの使用を中心とした筋力トレーニング。受講によって御殿下記念館トレーニングルーム使用資格が与えられます。

駒場キャンパスでの開講種目と定員：

金曜5限（16：20～17：50）

テニス 20名

ガイダンスおよび受講登録：

本郷キャンパスでの開講種目については10月9日（木）上記のそれぞれの授業時間に法学部31番教室で行います。テニス（駒場）については10月10日（金）5限に教養学部身体運動科学研究棟会議室で行います。同一学期に2コマ以上履修することは出来ません。

問い合わせ先：

教養学部生命環境科学系 八田助教授（内線46862）

e-mail: hatta@idaten.c.u-tokyo.ac.jp

（大学院総合文化研究科・教養学部）

常 識

「学生代表の傍聴人は出席していますね。それでは教授会を始めます。」

1980年代のはじめ、ハーバード大学公衆衛生大学院の助教授ポストに応募した私は、数人の一次選考試験通過者と共にセミナーで研究内容を発表するため、ボストンを訪問した。セミナー終了後いろいろな施設の見学をして数日を過ごしたが、そんな時教授会に出席しないかと誘われた。教授会への出席資格には厳しい制約がある、という常識を持っていた私は、不如意の英語と相まって、非常に困惑した。説明によれば教授会は、学位の認定や懲戒など個人にかかわる議題以外はすべて公開され、議事録は直ちに掲示される、とのことであった。しかも大学の主要な構成員である学生は、必ず傍聴することを求められているので、冒頭のような確認が教授会開会前によく行われていた。

このような公開性に加えて、多様性も私の常識を越えていた。1991年の教授会メンバーは207名で、この中には主要な事務担当者も含ま



れている。この200人余の教授会メンバーが保持している学位の総数は596で、学士が203、修士が174、医師資格を含む博士が219であった。これらの学位を授与した大学は、国名がはっきりわかる場合だけを取り出しても

全ての大陸を網羅する17カ国、164大学であった。出身大学数がこれだけ多くなるのは、平均3つ所有している学位をそれぞれ違った大学から得ている場合が多いからである。因みに一つの大学から保持する学位の全てを授与された教員は、私を含めて24名、全体の

一割強であった。このうち学位の全てをハーバードから授与され、ハーバードに奉職している人はわずか9名であった。教員だけでなく学生も多様で約600名の学生の内、約4割を占める留学生在が世界50カ国から集まっていた。

大学の競争力を維持するためには公開性と多様性が必須の条件である、と言う認識がその当時から彼らの常識となっていたように感じられる。ITの利用によって公開性はますます深化し、現在では学生による授業評価の結果を、ホームページから誰でも見ることができる。

(新領域創成科学研究科 柳沢幸雄)

(淡青評論は、学内の職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

◇広報室からのお知らせ

平成15年度「学内広報」の発行日及び原稿締切日を、東京大学のホームページに掲載しました。

URL: <http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/soumu/soumu/kouhou.htm>

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務課広報室を通じて行ってください。

No 1271

2003年9月24日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学総務課広報室 ☎ (3811) 3393

e-mail kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

ホームページ <http://www.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>